

ジャンボタニシ防げ

石灰窒素ドローン散布

【三重・伊勢】JA伊勢は10月上旬、玉城町の水田でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の駆除を目的とした石灰窒素の散布を、ドローンで行った。この日は、生産者が立ち合い、たん水した水田60㍓に石灰窒素120キをまいた。同JAはJA共済の支援で、水稲生産者に石灰窒素を無償配布しているところだ。

同JA管内では近年、水稲苗の食害が増え、ジャンボタニシに悩んでいる。現地研修会



ドローンで石灰窒素の散布作業をするJA職員

三重・JA伊勢 作業省力化に期待

などを通して生産者に農薬などによる対策を呼びかけているが、被害が急速に拡大している状況だ。地域一丸での早急の対策を講じる必要がある。

この日に石灰窒素を散布した水田には、稲刈り後に水をためてもらった。土中に潜り込んだジャンボタニシを浮かび上がらせて駆除効果を高めようとする狙いがある。JAの担当者は「ドローンを使って散布をすることで、作業の省力化を図りたい。ジャンボタニシの徹底的な駆除を目指していくと話した。石灰窒素の無償配布は9月中・下旬に行った。生産者が、稲刈り後にたん水した水田にそれぞれで散布して、ジャンボタニシの駆除剤として役立ててもらおう。JAは今後も、駆除に向けた取り組みを進めていく。